団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	ＮＰＯ法人　エコネットふくおか		
代表者	阿部　眞也	**担当者**	小出　まずる
所在地	〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭４－１３－４２ TEL:092－642－4641　　FAX:092－642－4598 E-mail:info@econet-fukuoka.com		
設立の経緯／沿　革	平成 12 年 4 月：福岡市が市の施設リサイクルプラザの企画運営に関わる市民ボランティア団体を募集。6 月：募集に応じたボランティアで活動開始。 12 月：設立総会（12/13）福岡県 NPO 法人認証申請（12/13） 平成 13 年 1 月：任意団体として、福岡市とリサイクルプラザ（仮称）事業企画運営業務委託契約を締結(1/9)。3 月末のオープンに向けて広報展示物作成、研修等の準備開始。3 月：NPO 法人設立認証(3/6)。登記、法人設立(3/22)． 臨海リサイクルプラザ開館（3/28）開館記念行事の開催、本格的な活動開始。 4 月：NPO 法人として、福岡市と臨海リサイクルプラザ事業企画運営委託契約を締結(4/1)		
団体の目的／事業概要	循環型社会をめざした３Ｒ推進に関して、福岡市民自らが語り合い、学び合い、考え、活動するための機会を創出し、行政・企業と協働して資源・エネルギーの循環を考えたまち「福岡」を創っていくことを目的とする。 廃棄物の減量及び資源の有効利用に関する情報及び体験の場を市民に提供することにより、その意識の啓発を図るとともに自主的な活動を支援し、資源循環型の形成に資するための活動を推進する。		
活動・事業実績(企業の場合は環境に関する実績を記入)	＊リサイクルギャラリーでの環境をテーマにした展示。 ＊体験コーナーでの裂き織りコースター作りや雑紙の紙すきでハガキ作り体験。 ＊教室、講座の開催（100 講座強）・不用になった古布を利用した「古布ぞうり作り」・不用布の「裂き織り」、「古着リフォーム」・使用済み油の「リサイクル石けん」・無農薬米の「エコクッキング」・生ごみと落葉や竹のすりつぶしの堆肥を作り、田畑へ還元、収穫への循環を学ぶ「生ごみリサイクル」・カレンダーの裏利用の「のびのび絵画教室」・「おもちゃの病院」等々を定期的に開催。 ＊情報・広報（情報紙・会報紙・ＨＰ・図書閲覧・ビデオ貸出） ＊資源回収（古紙・衣類・蛍光管・白色トレー・牛乳パック） ＊持込家具の修理、販売（家具・図書・衣類・雑貨）・まな板削り、再生。 ＊イベント開催（３Ｒ推進をテーマにした元気フェスタ・フリーマーケット） ＊出張講座、講師派遣（３Ｒの推進と提案） ＊マイバッグ推進ふくおか市民の会の事務局。福岡市，スーパー、市民の三者会議によるレジバッグ削減協定。		
ホームページ	http://www.econet-fukuoka.com		
設立年月	平成 13 年　3月　　＊認証年月日（法人団体のみ）13 年　3月　　6日		
資本金/基本財産（企業・財団）	円	**活動事業費／売上高（H20）**	40,000千円
組　織	スタッフ／職員数　　４名（内 専従　　４名）		
	個　人　会　員　124 名	法人会員　　名	その他会員（賛助会員等）　　１３名

提 言

政策のテーマ　　目指せ循環型社会！落ち葉を田畑に還そう・生ごみリサイクルも OK

団体名：NPO **法人エコネットふくおか**

担当者名：小出　まずる

■政策の分野
①循環型社会の構築
・持続可能な資源循環型の地域社会
■政策の手段
⑤施設等整備
・ 地域社会の公営公園にコンポスト設置（腐葉土づくり）
・ モデル公園に環境機器（すりつぶし機）設置（堆肥づくり）

■キーワード	循環型社会	落ち葉コンポスト、腐葉土	生ごみリサイクル	堆肥づくり	

① 政策の目的
公園や街路など身近にある落ち葉がごみとして収集され、焼却されている現状を鑑み、直接的にごみ減量を図るために「生ごみリサイクルの堆肥づくり」の基材として有効利用する。合わせて生ごみリサイクルからできた堆肥を還元することで循環型社会を構築していく。落ち葉を田んぼに還すことも薦められるとよい。（樹木の消毒されていないことが条件）

② 背景および現状の問題点
街や公園の植栽については緑の恩恵として理解されているが、落ち葉になると邪魔者扱い、極端になると公園等に隣接した住民からは伐採して欲しいとの依頼があるほど。公園等の植栽を管理（守り人）している状態が市民に見えていないのが原因。幼児期から公園内の樹木等の植生に接することで自然との共生が理解できると思われる。公園に関わる行政、関連業者や市民を含めて一体化したシステムを構築する必要性がある。

③ 政策の概要
ステップ１：行政サイドで公園内に落ち葉用のコンポストを設置、関連業者による落ち葉収集、コンポストへの投入。市民（ボランティア）による天地返し作業等による堆肥づくり。出来上がった堆肥は公園の樹木や花壇の有機肥料として還元。落ち葉を有効利用することで二酸化炭素を放出して焼却されていた「ごみ」でなくなるだけでなく、循環型社会として自然環境との共生が図れる。熟成途中の落ち葉も市民が自由に自宅へ持ち帰ることができるようにすれば畑や花壇によし。「生ごみリサイクルの堆肥づくり」の基材としても活用でき、家庭の生ごみも削減できるので幾つもの効果が期待できる。

ステップ２：循環型公園のモデルケースとして、落ち葉から腐葉土、堆肥づくりへの行程を短縮することで市民がより身近に参加しやすい仕組みを作る。ステップ１の場合、落ち葉が熟成して腐葉土になり堆肥化していくには約３～６ヵ月を要するので、市民の関わりも長期間の拘束になり日常的に参加しにくい面がある。この問題の解決策として、すりつぶす機能を持った機械の導入が考えられる。収集した落ち葉をその機械に投入すれば、瞬時に粉末状態で袋に入れ、湿気があればすぐさま発酵し、畑地にすぐ戻せる。容量も三分の一程度になり扱い易い。もちろん市民も持ち帰り易くなることで「ごみ」でなく「資源」としての活用で「ごみ減量」意識も高まると思われる。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

落ち葉のすりつぶしから生ごみリサイクルで持続社会の循環型社会へ。

行政（公園管理者）
- 公園管理＆機器購入（モデル公園）の費用について予算化。
- 定期的な広報活動

関連業者（委託会社・機器メーカー・研究所・農業生産）
- 落ち葉の定期的な収集
- コンポストの設置、管理
- すりつぶし機械の設置、管

市民（ボランティア）
- 生ごみリサイクル相談会
- コンポストの管理
- 堆肥の還元、花壇・田畑等
- 農業体験

「ごみ」から「資源」へ
- 自然と共生した社会づくり
- 二酸化炭素の削減
- ごみ減量への道しるべ

落ち葉の集まった所を自由に市民が持って行けることにするのはどうでしょうか。間で、天地返し等を市民が進んですることにします。

樹木も命の循環を市民が見られるようにしたらよいと思います。自分の家の畑に入れることで利用できるようにすれば、公園にとって焼きごみの費用も必要でなくなり、畑は有機栽培です。

皆（市民を含めて）の癖になってしまった「捨てる」とか、「焼きごみ」にするという段階を、改めて考えていく政策と仕組みが不可欠です。

⑤政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

実施主体：NPO 法人　エコネットふくおか
- 政策実施について、提携、協力団体のネットワークづくり及びコーディネート
- 生ごみリサイクル活動への参加、相談会実施。

提携（行政）：福岡県・福岡市・福岡市東区役所

提携（民間）：西邦機工株式会社（福岡県大野城市仲畑１４－１４）
株式会社サンケンエンジニアリング（福岡県糟屋郡篠栗町尾中字七苫５０１－１）
株式会社小山千緑園（福岡市東区若宮５－９－８）
松熊農塾（福岡県嘉麻市漆生２５２０）
銘建産業株式会社（福岡市博多区板付６－１３－８）
協力　福岡県下 NPO 団体
福岡市民、ボランティア

⑥政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

[事例]
＊福岡市　東公園（7 ヘクタールの総合公園）
公園内の落ち葉の処理（減量）について、現状及び期待される効果
現状（収集回数、容量等）
１．焼却場への持込回数（年 12 回、月平均１回）
１回当り容量：3ｔ（１ｔ車―3 台）
輸送費（人件費・燃料費）：1 回当り 27,500 円　　焼却費：１ｔ－14,000 円
年間：容量・・36ｔ、費用・・498,000 円
２．サンケンエンジニアリングへの持込回数（年 12 回、月平均１回）
１回当り：30ℓ ×40 袋　　1,200ℓ （約１ｔ）
年間：容量・・12 ｔ　費用・・60,000 円
３．エコネットふくおかへの持込回数（年６回、月平均 0.5 回）
1 回当り：30ℓ ×30 袋　　900ℓ （約 0.9t）
年間：容量・・5 ｔ　費用・・30,000 円
４．公園内でのコンポスト（５㎥×２基）
年間：容量・・8ｔ
年間総容量（落ち葉）
約６1ｔ（内焼却されている落ち葉　３６ｔ）
従来は２、３項目についての取り組みが出来ていなかった為、３０ｔ強の落ち葉が焼却処分されていた。２２年度に入り、「循環型社会」をキーワードにした協力団体とのネットワークを図ることで、直接的なごみ減量はもちろん、焼却場から発生二酸化炭素の減量にも結びつく結果にいたっている。
今後、地域社会の公営公園への広がりをつくっていくためには、落ち葉減量のモデル公園として、提携・協力団体（行政・民間企業・市民等）の経費の負担等を含めて諸問題を解決していく必要がある。
ステップ１は、４の公園内コンポストの設置増設による落ち葉減量。公園管理者の積極的な関わりとともに市民（ボランティア）への啓蒙とあわせて取り組んでいく。
ステップ２では、落ち葉から腐葉土、堆肥づくりをシステム化するためにすりつぶしの機械を導入。焼却している落ち葉は「ごみ」でなく「資源」として活用することで循環型社会を目指していく。

⑦ その他・特記事項

＊ 資源としての「竹」の有効利用（落ち葉と同様に）

竹は毎年生えて来るありがたい資源です。この竹に関しては、竹林を消毒されるのを聞いたことがないという確信があり「生ごみリサイクル」の基材として使用しています。

竹のすりつぶしとは、竹を４，５ｃｍぐらいに破砕し、それをミンチ機（大きな機械）にかけ、すりつぶして 80℃という温度で抹茶色で出てきます。この時、乳酸も出ると聞いているので匂い取りもするということです。

竹のすりつぶしと収穫した野菜の屑、草や生ごみとの堆肥を作っています。自家畑、借り畑、2 反弱の田んぼには、今までとても堆肥は、足りてはいませんでした。落ち葉はそれだけでも堆肥ができますが、竹のすりつぶしとまぶしこんで、積んで山にして熟成し畑に鋤きこめば土はふかふかとしてきます。

これは、はびこる竹の整備でもあり、生ごみ減らしでもあり、循環を実感しながら、無農薬米を収穫できます。その上、竹は稲科とわかり、稲作になお、よしというわけです。

竹のすりつぶし（マッシュバンブー）

コンポスト基材の違いによる小松菜の育ち

左：竹堆肥・中：無堆肥・右：木堆肥肥

伐採した竹で作ったコンポスト

落ち葉や竹をすりつぶす機械（ラブ・マシーン）